

ひがしの



家読のすすめ

校長 岩井 裕美

吹く風が心地よく感じられる今日この頃。東野小学校は第2期真っ只中です。第2期の重点の一つは「本をたくさん読もう」で、子どもたちは様々な本に親しみ、本を読む習慣を身に付けることや、語彙を増やすなど、日常の学習や生活に生かすことをめざしています。

東野小学校では年間を通じて朝読書にも取り組んでいます。今でこそ全国で3万校近くが取り組む朝読書。1988年、千葉県の二人の高校教師が提唱し、あっという間に全国の学校に広がりました。その効果は「集中力がついた」「読解力が高まった」「言語能力が伸びた」など、学力向上への効果のほか、「他人の気持ちがわかるようになった」など、子ども同士の人間関係改善の効果も認められています。夏休みや冬休みなどの長期休暇に入ると、せっかく身に付いた読書習慣が途切れてしまうということで読書を家庭でも続けられるように考えられたのが「家読」です。

「家読」は「家族ふれあい読書」の略語で「うちどく」と読みます。「家読」も歴史が長く、2006年に佐川二亮さんにより企画・提唱されました。家族で読書の習慣を共有することで、コミュニケーションを図り、家族のきずなを強めることを目的としています。家族みんなで一冊の本を読み、読んだ後に感想を言い合って、子どもと家族がコミュニケーションをとる、というのが基本スタイルです。読む本は自由ですが中でも絵本がおすすめです。絵本ならば短時間で読むことができ、人間・自然・愛・友情・家族等、人間が生きていく上で必要なテーマがそろっていますし、絵の印象や物語の感想など語り合う場面に多様性があるからです。そうとはいえ、我が家の「家読」があるのも素敵です。同じ時間にそれぞれが好きな本を読んで紹介し合う。旅行ガイドを見ながら家族旅行の計画を練る。子どもが大人に読み聞かせをする。いろいろ工夫して楽しんでもらいたいです。

まもなく、第2期も後半に入ります。日々忙しいですが、おうちで「家読」取り入れてみませんか。

(朝読書の様子)



